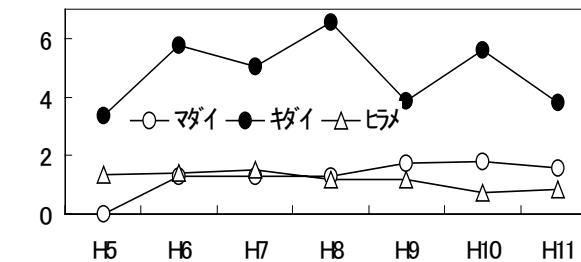
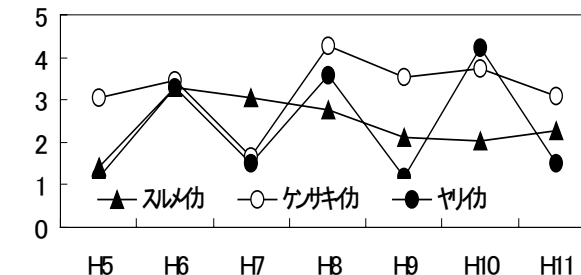
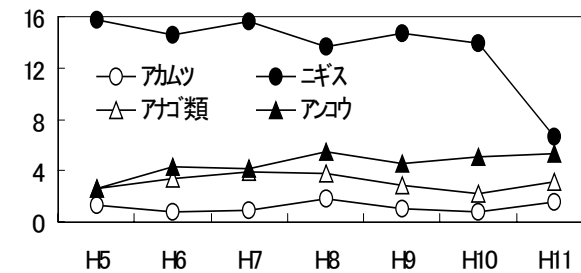
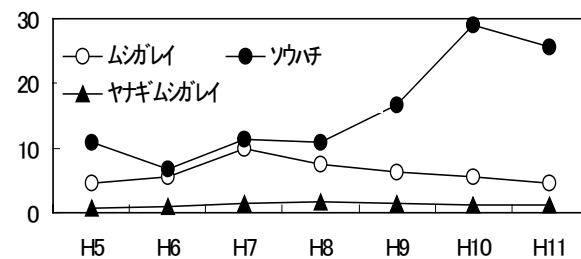
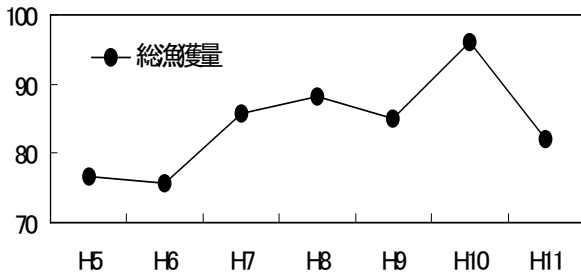


《 平成 11 年漁期の底びき網漁業の動向 》

1 隻当たり漁獲量 (トン)



島根県における小型底びき網漁業の主要魚種の動向

小型底びき網漁業 (第 1 種)

島根県の小型底びき網漁業 (かけまわし) 59 隻の平成 11 年漁期 (平成 11 年 9 月 ~ 平成 12 年 5 月) の総漁獲量は 4,847 トン、総水揚げ金額は 22 億 5 千万円でした。また、1 隻当たり漁獲量は 82 トンで前漁期を 14%、平年 (過去 6 年平均) を 3% 下回り、水揚げ金額は 3,815 万円で前漁期を 7% 下回りました。

: 当漁業における県全体の操業隻数は現在 62 隻ですが、59 隻分の集計結果です。

ソウハチ好調、ムシガレイ減少

ソウハチは平成 6 年漁期以降増加傾向にあり、今漁期は 1 隻当たり漁獲量が 25.7 トンで前漁期を 11% 下回りましたが、平年を大幅に上回り、好調が続いています。また、ムシガレイは平成 7 年漁期以降減少傾向にあり、今漁期は 4.7 トンで前漁期を 17% 下回りました。一方、ヤナギムシガレイの 1 隻当たり漁獲量は 1.3 トンで前漁期の 4% 増、平年並の水揚げでした。

アカムツ・アコウ・アナゴ類好調、ニギス減少

アカムツの 1 隻当たり漁獲量は 1.5 トンで前漁期の 2.1 倍、アコウは 5.4 トンで 6% 増、アナゴ類は 3.1 トンで 40% 増、いずれも前漁期を上回る水揚げとなりました。一方、ニギスの 1 隻当たり漁獲量は 6.6 トンで、平成 5 年 ~ 10 年漁期に比べ約 50% 減となりました。

イカ類やや低調

スレメイカの 1 隻当たり漁獲量は 2.3 トンで前漁期を 11% 上回り、ケンサキイカは 3.1 トンで前漁期を 18% 下回り、ヤリイカは 1.5 トンで前漁期を 65% 下回りましたが、いずれも平年をやや下回る水揚げでした。

タイ類・ヒラメ横直し

マダイの 1 隻当たり漁獲量は 1.5 トンで 13%、キダイは 3.8 トンで 32%、それぞれ前漁期を下回りましたが、ほぼ平年並の漁獲動向でした。また、ヒラメは平成 7 年漁期以降減少傾向にありましたが、前漁期をやや上回る水揚げでした。

沖合底びき網漁業

県西部

浜田港を基地とする沖合底びき網漁業（操業統数6ヶ統）の平成11年漁期（平成11年8月15日～平成12年5月31日）の総漁獲量は3,144トン、総水揚げ金額は16億6千万円でした。また、1統当たり漁獲量は524トンで3%、水揚げ金額は2億7千万円で17%、前漁期を上回りました。

カレイ類好調

ムシガレイの漁獲量は平成7年漁期以降減少傾向にありましたが、今漁期は1統当たり62トンで前漁期の1.8倍の水揚げがあり、平年（過去18年平均）を26%上回りました。ソウハチの1統当たり漁獲量は84トンで9月と2月にまとまった漁があり、前漁期の1.6倍、平年の1.5倍の水揚げとなりました。また、ヤナギムシガレイの1統当たり漁獲量は18トンで前漁期の1.7倍、平年の3.6倍となり、昭和62年漁期以降最高の水揚げでした。

イカ類低調

ケンサキイカの漁獲量は平成6年漁期以降増加傾向にありましたが、今漁期は1統当たり35トンで前漁期の44%に留まり、平年を24%下回りました。また、ヤリイカの漁獲量は平成6年漁期以降減少傾向にあり、1統当たり5トンで前漁期を63%、平年を92%下回る水揚げでした。

アナゴ急増・アンコウ好調

アナゴの1統当たり漁獲量は61トンで10～12月にまとまった漁があり、前漁期の2.1倍、平年の1.6倍の水揚げでした。また、アンコウの漁獲量は平成3年漁期以降増加傾向にあり、今漁期は1統当たり20トンで前漁期を17%、平年を69%上回りました。

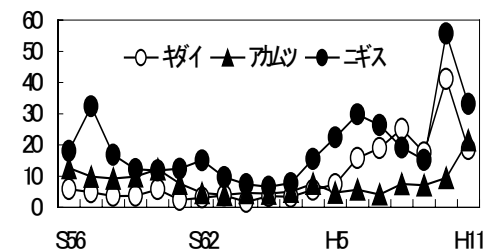
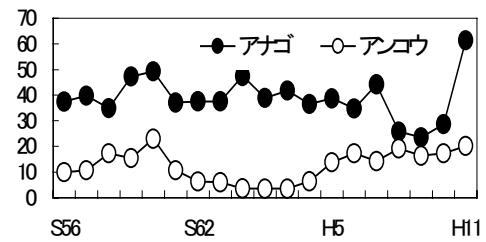
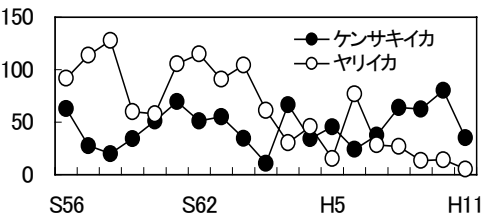
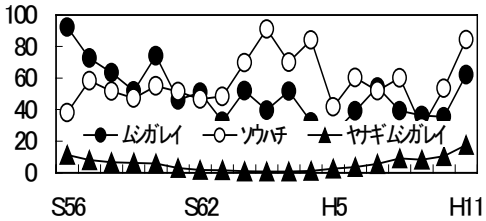
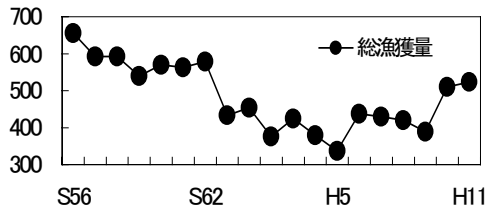
アカムツ好調

アカムツの1統当たり漁獲量は21トンで、前漁期の2.3倍、平年の3.0倍となり、昭和56年漁期以降最高でした。また、キダイとニギスは近年同様な漁獲傾向がみられ、今漁期の1統当たり漁獲量はキダイが19トン、ニギスが33トンで、それぞれ前漁期の約半分の水揚げでしたが平年を上回って好調が続いています。

県東部

恵曇港を基地とする沖合底びき網漁業（4ヶ統）の平成11年漁期の総漁獲量は1,469トン、総水揚げ金額は8億4千万円でした。1統当たり漁獲量は367トン（前年比10%減）、水揚げ金額は2億1千万円（前年比5%減）で、量・金額ともに前漁期および平年を下回りました。

1統当たり漁獲量（トン）



浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における主要魚種の動向

ヤナギムシガレイ・ニギス・アカムツ好調、その他カレイ類・イカ類・ヒラメ横ばい

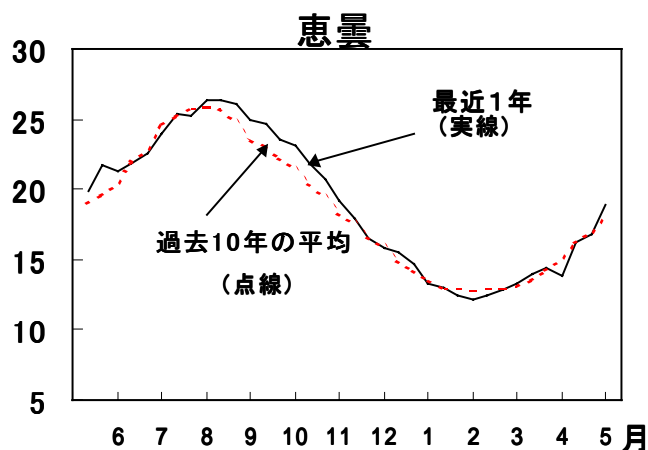
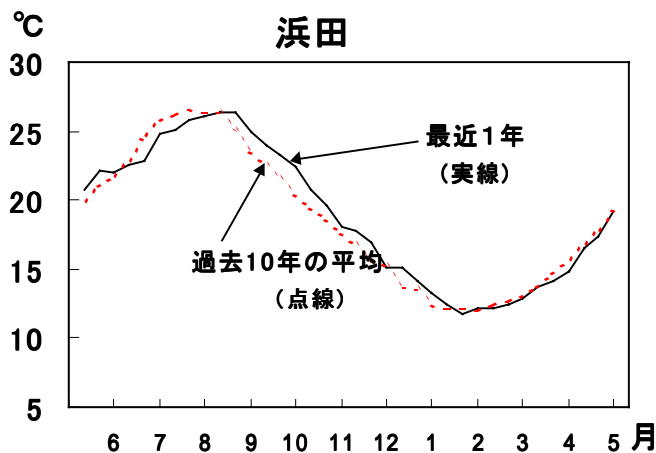
ヤナギムシガレイの漁獲量は129トンで前漁期の1.3倍、平年の3.9倍となり、昭和61年漁期以降最高でした。また、ニギスは33トン（前年比23%増）、アカムツは6トン（前年比41%増）の水揚げでした。その他、漁獲量が前年と比べ増加（1%～8%増）した魚種はソウハチの122トン、ムシガレイ80トン、アカガレイ241トン、スルメイカ36トンで、逆に減少（3%～15%減）した魚種はケンサキイカ92トン、ヤリイカ21トン、アンコウ80トン、アナゴ57トンなどでした。

《 5月の海況 》

定地水温

5月	月平均	平年差	評価
浜田	17.7	-0.2	平年並み
恵曇	17.4	+0.2	やや高め

5月の月平均水温は4月に比べ浜田で3.5、恵曇で3.3上昇しており、浜田では平年に比べ「平年並み」、恵曇では平年に比べ「やや高め」の水温経過となりました。



島根・山口・鳥取の各県水産試験場が行った海洋観測結果(5月下旬～6月上旬)によると、鳥取県東部沿岸域では平年よりもやや高めとなっていました。山陰海域の水温は冷水域の周辺で平年より低く、ほぼ全域で各層とも平年よりやや低めとなっていました。

また、6月の山陰海域の水塊配置は、5月に観測されていた配置とは異なり、沖合から沿岸に連なる複数の冷水域と暖水域が入り混じる、非常に複雑な水塊配置となっていました。

《 5月の漁況 》

【中型まき網漁業】

浜田港の中型まき網の総漁獲量はマアジ主体に607トン、水揚金額は1億205万円でした。また、1統当たりの漁獲量は前年の282%、平年の25%と、極めて低調に推移した前年を上回ったものの平年を下回りました。水揚金額は2,551万円(前年比:150%増)と低調だった前年を上回りました。恵曇ではカタクチイワシ、マイワシを主体に総漁獲量768トン、水揚金額は5,734万円でした。1統当たりの漁獲量は110トン(前年比:182%増)、水揚金額は1,458万円(前年比184%増)でした。浦郷ではマアジ、マイワシ主体に総漁獲量2,228トン、水揚金額は1億3,625万円でした。1統当たりの漁獲量は419トン(前年比:159%増)、水揚金額は2,725万円(前年比:107%)でした。

【イカ釣り漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣り船(5トン以上)によるイカ類の漁獲量は、スルメイカを中心に94.6トン(前年比:124%)とやや好調に推移しました。スルメイカの魚体は、20入り及び25入り(外套長20～24cm)が主体でした。一方、西郷のイカ釣り船(5トン以上)では、スルメイカを中心に75.1トンの漁獲(前年比:88%)で、やや低調に推移しました。

【沖合底びき網漁業】

浜田港の総漁獲量は268トン、総水揚金額は1億4,061万円でした。また、1統当たり漁獲量は45トン(前年比:21%減)、水揚金額は2,343万円(前年比:24%減)でした。ヤナギムシガレイ(前年比:1.5倍、平年比:3.9倍)とアカムツ(前年比:4.0倍、平年比3.1倍)はまとまった漁がみられ、ソウハチ、ムシガレイ、スルメイカ、アナゴは前年を下回りました。

恵曇港の総漁獲量は135トン(前年比:12%増、平年比:2%増)、総水揚金額は5,611万円(前年比:4%減、平年

比：23%減)でした。ヤナギムシガレイ、アンコウ、ケンサキイカは平年の2.0～6.2倍の漁でしたが、ムシガレイ、ソウハチ、メイタガレイ、キダイ、アナゴ、アカムツは平年を15～80%下回りました。

【小型底びき網漁業】

和江漁協における総漁獲量は443トン(前年比：7%減)、総水揚げ金額が1億5,336万円(前年比：4%減)で、量・金額とも前年を下回りました。漁獲の主体は前年同様ソウハチで253トン(前年比：82%)、次いでハタハタ73トン(前年比：350%)、アンコウ・スルメイカ・ムシガレイが14～20トンの水揚げがありました。

大田市漁協における総漁獲量は173トン(前年比：106%)、総水揚げ金額が6,812万円(前年比：117%)で、量・金額とも前年をやや上回りました。漁獲の主体は和江漁協と同じくソウハチで72.9トン(前年比：125%)、次いでハタハタ27トン、スルメイカ11トン、ニギス15トンの水揚げがありました。

【定置網漁業】

県下全域で、前月に比べて、漁獲量、水揚げ金額とも増加しています。浜田では、前月に比較してマアジは大幅に減少したもののブリが増加し、量・金額とも前月の2倍程度となっています。しかし、ブリやマアジが好漁であった前年および前々年同月に比べると金額は2割程度下回っています。恵曇では、マアジの漁獲量が増加し、単価も500円/kgを越えていたため、水揚げ金額は前月ならびに前年および前々年同月を上回りました。浦郷では、マダイが12.7トンと好漁であった前月をさらに上回って、マダイの漁獲量としては過去3ヵ年では最高となり、漁獲量・生産金額とも前月ならびに前年および前々年同月を大きく上回りました。

【釣・縄】

先月好調であったブリの漁獲量は大幅に減少し、これに代わって浜田ではマアジとスルメイカ、五十猛ではカサゴ類の漁獲量が増加しています。漁獲量ならびに水揚げ金額は、浜田では前月および過去2ヵ年平均の約20%減、五十猛も同じく約10%減でした。

漁獲統計

平成 12年5月1日～31日

漁業種類	水揚げ港	延隻数・統数	主要魚種	1隻(統)1航海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	73	マアジ	8.3ト	607ト
	恵曇	97	カタクチイワシ・マアジ・マイワシ	7.9ト	768ト
	浦郷	98	マアジ・マイワシ	21.4ト	2,096ト
イカ釣り (5トン以上)	浜田	363	スルメイカ・ケンサキイカ	260kg	94.6ト
	西郷	538	スルメイカ	140kg	75.1ト
沖合底びき網	浜田	29	ムシガレイ・アナゴ・スルメイカ	9.2ト	268ト
	恵曇	37	ケンサキイカ・スルメイカ・ウマズラハギ	3.6ト	135ト
小型底びき網	和江	458	ソウハチ・ハタハタ	967kg	443ト
	大田市	234	ソウハチ・ハタハタ	739kg	173ト
定置網	浜田	73	コウイカ類・ブリ・ケンサキイカ	536kg	39.2ト
	恵曇	69	マアジ・トビウオ類・ケンサキイカ	198kg	13.6ト
	浦郷	17	マダイ・カワハギ類・ヒラマサ・ブリ	2,108kg	35.8ト
釣・縄	浜田	1,404	ブリ・スルメイカ・マアジ	18kg	25.0ト
	五十猛	555	カサゴ類・スルメイカ・ブリ	25kg	13.7ト

1隻(統)1航海当漁獲量は総漁獲量/延隻数・統数で算出しており四捨五入した値です。